

今月のことば

～保育のビタミン～



子どものときなりたかったものに、なる人は少ない

佐々木 哲生
ささき てっしょう

あなたは、子どもの頃に将来自分が何になりたかったか覚えていますか。子どもの時に、自分が何になりたかったか、ちゃんと覚えている人は意外と少ないものです。けれども、その一方でしっかりと覚えている人は、おおむね希望をかなえたか、その夢に近い仕事に就いているようです。

園生活の中では、保育の計画を立てたり、教材を作ったり、記録をつけたり、子どもたちの世話をしたり、それこそ「しなければならぬこと」が山ほどあります。あなたは、そんな毎日の中で自分の内からわき上がるような思い、言うなれば「せずにはおれないこと」を見出していますか。

もし見出せないまましていると、遊戯会や生活発表会などの大きな行事は、年間行事として予定されている「しなければならぬこと」として消化することに関心がかたむき、どん

なに立派な演技を披露しても、結果的に子どもたちは「させられてしまっている」ことになるかもしれません。

だから、例えば自分自身に「どうして遊戯会（生活発表会）をするのですか」と問いかけてみて、「年間行事だから」以外の答えを見出せないと、練習を進めて行く中で、思い通りにならない子どもを追い込んでしまったら、日々の保育にも余裕を持てなくなったりするかもしれません。

あなたは、保育に携わっている時の自分が好きですか。また、「私が一番輝いているのは、保育をしている時です」と笑顔で言えますか。あなたは、なぜ保育者になろうと思ったのですか。そして、どんな保育者になりたいと思っていましたか。そういった、あなたの「保育者としての原点」を、今でもちゃんと覚えていますか？